

## 華厳宗

華厳宗宗務所は奈良の東大寺にあります。宗務所内の照明は 20%の削減、昼休みの消灯、使用頻度の低い場所のこまめな消灯を徹底しております。

そのほか、南大門の投光器 8 基のうち半分は 2 年前に省エネタイプに変更、今夏のライトアップは 4 基に減少しております。また、仁王尊像・大仏殿中門二尊像の照明は LED に変更、さらに、大仏殿内の霊各所・ニカ所の授与所も LED 照明に変更いたしました。大仏殿内の照明については、すべて LED に変更したいのですが、大型器が販売され次第、設置を行う予定です。

二月堂の灯籠（136 基分）は 20 年前から省エネタイプ（当時は 3 分の 1 の消費電力）に変更しておりましたが、現在は 5 分の 1 の消費電力のタイプに随時変更しております。このタイプの照明は本坊内の廊下にも採用しております。

室温は 28℃以下に設定し、温度計を設置して空調を管理しており、また職員のクールビズの実施やサーキュレーターの併用、事務機器については業務終了後に自動的に電源 OFF になるタイプを採用、パソコンについては省エネモード設定を積極的に活用しております。また、本坊寺務所及び大仏殿は 200V を導入。本坊については最新の 200V 対応の空調機器に変更し、消費電力は従来の 3 分の 2 になりました。

多くの文化財を抱える東大寺では、太陽光発電等の自家発電の導入が難しいのが現状です。ただ、関西電力が呼びかけている計画停電対応のため、太陽光発電とは異なる発電機を設置している所もあります。

伽藍の多くが木造建築で、しかも文化財に指定されているものも多く、空調設備はありません。昔ながらのすだれ等を設置して暑さを凌いでおります。

今後は省エネのみならず、防災・防犯・防火、さらには緊急避難の必要性を鑑み、近隣地域と連携しながらプランの検討を始めました。